

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



函館山

No. 153 函館商工会議所報
1994 — 6月号

のびゆく地元のお手伝い……

ゆたかな夢を大きく育てる。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんたい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

Lhくみのローン

手続カンタン
スピード融資

目的ローン

マイカーローン

ビジネス・オート
ローン

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。



・コミュニティバンク・

函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

●ともえ6月号(通巻153号) 目次

今月の表紙／視点 2 5 1
 会議所の動き 2 5 1

・全道専務・局長会議

・函館・福島間にコミュニーター就航

・合同部会開催

・マルチメディア講習会

・北海道新幹線建設促進期成会総会

・国際チャーター便就航推進懇談会

・ポートセールズ実施

・データをチェック 6

調査レポート 6 11 6

・地域の景気 金融経済概況 四月

・市内第一種大規模小売店舗売上高 四月

・函館地域における景気動向 平成五年年度 第四四半期 12 13

誌 上 講 演 12 13

・エイズと企業—予防と対策 人を活かす 11

・共済推進コーナー 15 14

テイータイム 15 14

・暮らしのワンポイント

・さわやか君

・有段を目指して 詰碁・詰将棋

アドバイスコナー 16 17

・上杉鷹山に学ぶ経営戦略 (3)

Q & A 18 19

・みんなの相談室 税務相談

こ 案 内 20 22

・本所会費納入のお願い

・社員採用合同企業説明会・就職情報誌

・国民金融公庫制度融資

・検定試験のお知らせ

・L O B O 調査集計結果F A X 送信中

・ご利用下さいノ本所の個別専門相談

◇今月の表紙

函 館 山

牛が寝ているようなその形から、臥牛山とも呼ばれている函館山は、標高三三四メートル、周囲九キロメートルの約二百万年前に活動を終えた休火山。第二次大戦までは、要塞として軍の管理下に置かれ、戦後、市民に開放されたが、永い間、立入禁止であったことと、津軽海峡に突き出した地理的条件から、自然環境が保全され、いまでも六百種以上の植物が分布している。

また、山頂からの眺めは絶景で、昼は遠く下北半島も望む大パノラマ、夜は香港、ナポリをしのぎ世界一といわれる夜景が眼下に広がり、四季を問わずすばらしい展望を楽しむことができる。

視 点



暖い天候に恵まれた五月も終り、青葉が眼にしみる初夏の六月を迎えました。今年の夏は、昨年のような冷たい夏ではなく、晴れ渡った暑い夏であって欲しいものです。

安政六年の港の開港以来、始めて海外と定期航空路を開いた函館空港は、本年四月四日の第一便以降も順調に成績を伸ばし、この一カ月間の搭乗率は七十%を越しており、近い将来の大型機の導入も期待できそうです。

一方、文字どおりわが国で十九番目の国際空港となった函館空港の、第二、第三の国際定期便の就航に向けて、まずチャーター便で実績を上げようということで、先月十九日には、商工会議所が提唱した第一回の国際チャーター便就航推進懇談会が開かれ、航空会社、旅行会社そして国際交流団体も参加し、チャーター便を今後増やしていくための方策等について、それぞれの立場かや意見の交換がなされました。

その中でも、特に近年わが国との貿易が拡大してきている東南アジア諸国との就航を、前向きに検討すべきであるという提言もあり、次の機会にはそのための具体的方策等についても、検討されることになると思います。

ただ息長くチャーター便を就航させ、定期便につなげていくためには、やはり長期間にわたる市民の積極的な参加と、各企業の福祉厚生事業の一環としての活用が望まれるところです。一便あたり二百五十人位の参加が必要ですので、会員企業の絶大なるご協力をお願いいたします。

会 議 所 の 動 き



全道大会提出議案を決定 全道専務・局長会議等開催

去る五月十六日、札幌市で北海道商工会議所連合会の第二十九回運営委員会をはじめ、第百五十六回専務理事・事務局長会議、北海道共済事業振興会総会や北海道ウイズプラン協議会等が相次いで開催され、本所から平野専務理事と野崎事務局長が出席しました。

全道商工会議所専務理事・事務局長会議では、六月七日網走市で開催される第四十四回全道商工会議所大会への提出議案二十六項目（中小企業振興分科会八議案、運輸観光分科会八議案、地域振興分科会十議案）及び特別提案三項目などが決められました。

また、事務局から運営委員会で協議された日商正副会頭との懇談会における北海道ブロックよりの要望事項やエグゼクティブ・チェンバークラブ（仮称）の設置について説明があり、原案通り、総会に提出することが決定しました。

一方、北海道共済振興会総会では、平成六年度の事業計画と収支予算等について審議が行われ、すべて原案どおり決定しました。

観光・経済での交流を期待！ 函館・福島間に「ミニユーター」就航

函館～福島間に季節運航のミニユーター路線が開設され、六月一日から営業を開始しました。就航したのは中日本エアラインサービス（NAL、本社・愛知県豊山町）のフォッカー50型機（五十六人乗り）で、八月末日までの三ヶ月間、一日一往復の運航が予定されており、南東北や北関東との観光面や経済面での交流が期待されています。

第一便では、福島側から県・市村・経済団体の代表とミス郡山らを含む五十四人が来函しました。

なお、事務局から生命共済制度加入者の高令化により、保険金の上昇傾向にあるため、年令群団別掛金方式を導入することによって、今後、健全なる運営が確保できるとの説明がなされ、本所でも、この方式を平成七年度から導入することにしています。

空港では初便歓迎セレモニーが行われ、塔乗者全員に函館の特産品が贈られたほか、夕方には福島側表敬訪問団を囲んでの歓迎レセプションが、函館山展望レストランで行われました。

一方、第一便の折返し便では、函館側から沼崎観光協会長（本所副会頭）ら十一人が福島を訪れ、県庁の他、須賀川市・郡山市・福島市等への表敬訪問を行い、郡山市・福島市では揃いの法被で持参したバター飴を配るなど、観光誘致キャンペーンも行いました。

新函館市観光基本計画について市と協議 合同部会開催

本所六部会の合同部会が、去る五月二十七日、ホテル函館ロイヤルを会場に、本所議員など四十四名が出席し開催されました。

当日は、函館市が本年三月策定した「新函館市観光基本計画」について、函館市林観光室長を講師に招き、説明を受けました。
この中で、林室長から、昭和五



十七年に策定した函館市観光基本計画が、関係者の協力のもとで来函観光客数などの目標を達成したことに對する感謝と、今後とも、関係者の支援のもとで「きらめきとふれあいの国際観光都市・函館」への建設に向かつて各種事業を展開していく予定であり、経済界からのご協力もお願いしたい旨の発言がありました。

また、出席者からは、本計画の中に、観光地の駐車場不足問題について質問があり、市としても今

後地権者等との協議を進め、積極的に対応していきたいとの回答がなされました。

なお、新観光基本計画の基本理念と目標像は次のとおりです。

- ▽基本理念 ①世界に通用する魅力と受入れ体制の整った「国際観光交流都市」 ②四季を通じての新しい楽しみを地域が一体となつて創り出す「通年観光レクリエーション都市」 ③快適で安全な滞在環境と充実した生活、文化環境を備えた「快適観光文化都市」
- ④道南及び青函広域観光圏のハブ機能を有する「広域観光拠点都市」
- ▽需要目標 観光客入込数は、平成十五年度（目標年次）で、七百萬五千人を目標としています。

情報化時代に対応 マルチメディア講習会等開催

本所情報対策委員会は、去る五月十八日に、情報通信の基盤メディアとして期待されているマルチメディア講習会を開催しました。

講師のNTT北海道支社の、伊

いくとの見通しが示された他、パソコンネットワークを活用したマルチメディア利用の例として、文字や映像、音声等の情報をユーザーが自由に引き出して、活用する方法を実演しました。

続いて、テレビピア構想の中核事業として位置づけられ、本年6月に開局予定の函館ケーブルテレビ(株)の、遠藤光俊取締役技術部長から、CATVは多彩な番組の中から、自分の好むものを自由に選択することが出来るメディアとして、また近い将来には、双方向の通信が可能となり利用拡大が期待されていることなどについて説明があり、加入要請がなされました。

マルチメディアについては、郵政省の諮問機関の電気通信審議会が、先に発表した答申の中の試算によると、二千年まで三十三兆円から五十五兆円規模の投資を行い、光ファイバーケーブルを全国に整備することにより、約百二十三兆円の新市場が形成され、新規雇用は二百四十三万人に達すると

の報道もあり、五十名を超える参加者は熱心に聴講しました。

高速交通体系の整備に向け 積極的な陳情活動を決議

北海道新幹線建設促進期成会（会長・横路知事）の総会が、去る五月二十日、札幌市の北海道経済センターで開催され、本所から若林会頭が出席しました。

総会では、横路知事から「本年二月の大蔵、運輸、自治三大臣の申合せにより、道新幹線が明記されたが、本年度は、ルート、駅問題など地元のコンセンサスを形成していくため、道民ぐるみでの取り組みが必要」との挨拶がありました。

このため、道期成会としては、「新しい基本スキーム」に道新幹線（青森・札幌間）着工を明記するよう、国会議員、関係団体、地方期成会、さらに東北各県などとの積極的な連携を強め、関係機関に対して要請活動を展開することになりました。

また、道新幹線道南地方期成会（会長・本所若林会頭）の総会が、

五月二十六日函館国際ホテルで開催され、道新幹線建設促進に向けた事業計画など地域としての取組みについて、協議を行い決定しました。特に、本年九月には、道期成会との共催で「新幹線フォーラ

東南アジア諸国との経済交流促進 チャーター便就航推進を協議

去る五月十九日、国際チャーター便就航推進懇談会（座長・西野国際交流委員長）が、本所において開催されました。

本所では、東南アジア諸国との経済交流の促進には、定期航空路線の開設が不可欠との認識に立ち、今年一月十九日には、若林会頭、西野委員長が、日本へ東南アジア路線に実績のある航空会社に対し、開設の要望を行ったところだ。

この度の会議は、定期航空路線

ムを開催し、広報活動を強化することにになりました。

また、同日午後からは、北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会が開催され、本所から同期成会副会長として若林会頭が出席しました。

総会では、縦貫道建設にあたっては、函館側からの着工を、積極的に建設省、国会議員等へ陳情することになりました。

開設にあたっては、まず、チャーター便による実績を積むことが必要とされていることから、航空会社、旅行代理店、各国際交流団体等に呼びかけ、チャーター便の就航推進に向けて、情報交換、意見交換を行いました。

懇談の中で、チャーター便の一番のネックは集客であり、これをどう解決するかが成否のポイントであること、路線としては、函館と結びつきが強くなっているシン

ガポールや台湾、香港が有望であり、利用促進を図る上で、定期的な運航が必要である、など数多くの意見が出されました。

なお、今後も会合を重ね協議していくこととなりました。

在京大手企業を訪問 ポートセールス実施

函館港利用促進協議会（会長木戸浦函館市長）による平成六年度第一回ポートセールスが、去る五月二十四、二十五日の両日、木戸浦市長や本所若林会頭（同会副会長）を始め、関連業界の代表など十四名が参加し、東京方面の大手企業を訪問しました。

今回は、本年四月、函館―ユージノサハリンスク間の定期航空路が開設されたことを受け、サハリンの石油開発計画などに関係する企業が、函館を開発の前線基地として、利用することの要請を主体に実施されました。

当日は同プロジェクトに参画している六社を訪問し、新設された航空路線や港の状況、そして函館のもつ歴史性、文化性などについて説明、今後の積極的利用を要請しました。



事務局日誌

5月

* 正副会頭会議

- 11(水) 第62回正副会頭会議
- 23(月) 第63回正副会頭会議

* 部会

- 27(金) 6部会合同部会

* 委員会

- 18(水) 情報対策委員会・マルチメディア講習会

* 会議(日商)

- 17(火) 規模別商工会議所専務理事懇談会・懇親パーティ
- 18(水) 第48回全国商工会議所専務理事・事務局長会議

* 会議(道商連)

- 16(月) 第29回運営委員会
- 第156回全道商工会議所専務理事・事務局長会議

* 審査会

- 24(火) 小企業等経営改善資金審査会

* 諸会議

- 9(月) (社)函館観光協会平成6年度第1回理事会
- 10(火) 函館圏企業誘致推進協議会平成6年度第1回幹事会
- 平成4年度大型巡視船命名・進水式
- 北海道大型観光キャンペーン道南イベント実行委員会事前打合せ
- 平成6年度函館港湾振興会第1回理事会・総会
- 12(木) 大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律に基づく意見聴取会議
- 渡島地方技能尊重運動推進協議会・総会
- 13(金) (財)函館市住宅都市施設公社会計監査
- 函館市自衛隊協会平成6年度総会防衛講話
- 16(月) 第17回北海道共済事業振興会・総会
- 日本団体生命保険(株)ウィズプラン協議会
- 17(火) 函館港まつり協賛会理事会・総会
- 函館市国際交流団体連絡会議
- 平成6年度 函館圏企業誘致推進協議会総会
- 18(水) 函館港利用促進協議会理事会・総会、幹事会
- 1994年度第2回函館夜景の日実行委員会
- 19(木) 本所婦人会役員会
- (社)函館観光協会・総会
- 国際チャーター便航推進懇談会
- 20(金) (財)テクノポリス函館技術振興協会会計監査
- 函館市公文書公開審査会
- 北海道新幹線建設促進期成会平成6年度総会
- 21(土) 所報「ともえ」No.154 6月号 編集会議
- 23(月) みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会・役員会
- 函館極東貿易協同組合・総会
- 在 札幌ロシア連邦総領事アンドレイ・フリフォフ氏懇談会
- 函館日米協会理事会・総会
- 函館の街をきれいにする市民運動協議会 平成6年度会計監査
- 24(火) 函館中国経済促進協会総会・講演会
- 北海道東北開発公庫懇談会
- 25(水) 函館警察官友の会役員会総会・講話
- 青函インターブロック交流圏構想推進協議会連絡会
- 26(木) 平成6年分所得税の特別減税説明会
- 北海道新幹線建設促進道南地方期成会理事会・総会
- 北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会総会
- 拓銀ビル改修工事打合
- 27(金) 本所婦人会5月例会
- 仮称「いかの街はこたえて生鮮いか」キャンペーン実行委員会設立総会
- 30(月) 郷土芸能函館巴太鼓振興会総会
- (財)テクノポリス函館技術振興協会 平成6年度第1回理事会
- 港まつり下打合
- 31(火) 国立函館大学誘致促進期成会理事会・総会

* 講習・催物

- 6(金) 複式簿記実務講座(～6/17までの毎週火・金曜日)
- 11(水) 第3回会津の物産と観光展
- 18(水) 発明相談
- 19(火) 平成6年度3級販売士養成講習会(～7/12までの毎週火・木曜日)
- 26(木) 第11回北海道味覚まつり

* 刊行物

- 10(火) 所報「ともえ」5月号 No.152

* 相談・診断

- 金融 93 税務 17 経理 12 経営 48
- 労働 1 取引 2 その他 4 合計 177

* 貸室

16

* 文書

- 受信 214 発信 21

* 検定試験

- 8(日) 平成6年度第1回4級ワープロ技能検定試験
- 21(土) 第13回2級ワープロ検定試験

* 陳情・要望

- 24(火) 函館港利用促進協議会(ポートセールス)

* 慶弔・その他

- 2(月) みちのく友の会ロシア極東8日間の旅(～5/9)
- 北海道東北開発公庫函館事務所花巻省三副所長来所
- 9(月) 函館信用金庫 森 迪康理事長来所
- 北海道東北開発公庫函館事務所 高橋重治所長来所
- 10(火) 函館信用金庫第71期通常総代会、懇親会
- 会津若松市一行表敬訪問
- 11(水) 箱館戦争戦没者供養祭
- 北海道税理士会函館支部総会、懇親会
- 13(金) 函館特産食品工業協同組合総会、懇親会
- 函館機械金属造船工業協同組合連合会総会、懇談会
- 共栄運輸(株) 斎藤鉄男議員来所
- 上谷俊夫市議会議員来所
- 14(土) ミスター土方コンテスト
- 第25回箱館五稜郭祭記念式典
- 15(日) 第25回箱館五稜郭祭本祭維新行列
- 16(月) 北海道東北開発公庫 中田一男副総裁表敬訪問
- 17(火) 箱館五稜郭祭協賛会御社回り
- 18(水) 北海道通商産業局商工課 高橋敦生統括係長来所
- 19(木) 明治生命保険(相)法人契約設計部 坂田敦彦次長・函館支社 水沼和善法人課長年金共済決算報告説明来所
- 22(日) 湯川商店街振興組合総会、懇親会
- 23(月) 中小企業金融公庫 中島亮支店長来所
- 大野町商工会 花巻会長・佐藤・伊藤副会長就任挨拶
- (株)鴻ノ池組北海道支店開発部 山浦氏・近江谷函館営業所長来所
- コープさっぽろ開発室 小林マネージャー来所
- 24(火) 北海道通商産業局 高梨局長・広島生活産業課長来所
- (株)エスイーシー 佐藤取締役SI事業部長・棟方システム企画課長来所
- 25(水) 函館都心商店街振興組合平成6年度総会、懇親会
- 五稜郭商店街振興組合総会、懇親会
- 函館日仏協会5月例会
- 北海道新幹線対策室 菅谷室長・小林主幹・奥野主事来所
- (株)古牧温泉渋沢公園 塾林専務取締役・葛西函館営業所長来所
- 26(木) 函館ハーバービューホテル リニューアルオープン記念「感謝の夕べ」
- (社)函館地方法人会第17回通常総会、懇親会
- 海上自衛隊 明野大濠幕僚長表敬訪問
- (株)丸井今井 今井保相談役・東口常務取締役函館支店長表敬訪問
- 北海道商観部貿易経済交流課 武蔵主幹・渡島支庁経済部 及川係長・函館市古川商業振興課長来所
- 28(土) 千代台公園野球場竣工記念式典
- 30(月) (協)函館専門店会総会、懇親会
- 平成6年度函館物産協会定時総会、懇親会
- 北海道中小企業家同友会 戸沼函館支部長・佐藤事務局長就任挨拶
- 31(火) 日本エアシステム 戸田取締役札幌支店長来所

(4) 建設関連

4月の管内公共工事請負額は、災害復旧工事分も加わり前年比プラス9.5%と公共事業の前倒し執行のため高水準であった前年をさらに上回った。また、函館市および周辺3町の新設住宅着工戸数(4月)は、持家の好調を映じ同プラス20.7%と再び高い伸びを示した。この間、建設業者は、公共工事の順調な発注や住宅投資の好調から繁忙感を持続している。

(5) 農業

水稻等の生育状況は、気温・日照時間ともに恵まれたことから平年並みに推移しており農作業も順調に進捗している。

(6) 消費関連

4月中の市内大型小売店(10店ベース)の売上高は、大店法改正に伴う休業日数(年間44日→24日)の削減効果や、春物衣料を中心とした衣料品で動きがみられたことから、前年比マイナス4.3%とマイナス幅が前月に比べ縮小したものの、20カ月連続して前年を下回っている。また、耐久消費財では、家電販売が白物家電を中心に引続き前年並みの売上を確保しているものの、新車自動車販売は前月の需要先食いもあって、主力の小型車、大衆車が不振であったことから同マイナス10.5%

とマイナス幅をやや拡大した。この間、観光・レジャー面をみると、ゴールデンウィークを前に団体客を中心に入込みがやや伸び悩んだため、4月の市内主要ホテルの宿泊客数の前年比伸び率(同プラス9.0%)が鈍化したほか、観光施設利用客数も低調であった。

3.金融事情(4月中)

実質預金は、全体の吸収地合いは引続き低調ながら、災害復旧関連の工事代金入金増や、月末日休日による決済資金の滞留等により、月中213億円の増加と前年同15億円増加を大幅に上回った。また貸出は、企業側の抑制的な借入れ姿勢が続いていることから、月中164億円の減少となった。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、短期プライムレート引下げに伴う金利改訂の動きがほぼ一巡したことから、月中マイナス0.001%と前月比ほぼ横這いとなった。

銀行券は、月中59億円の発行超と前年の同42億円発行超を上回った。

財政収支は、災害復旧関連を中心とした公共事業費の支払い増加等により、月中269億円の払超と前年の同152億円払超を上回った。

データをチェック!

全体の平均時間は31分
～通勤や通学にかかる時間～

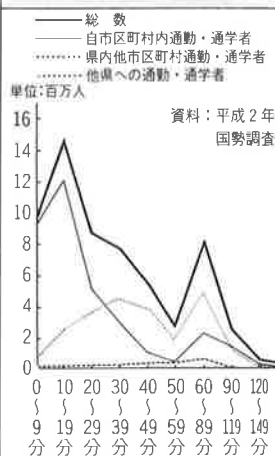
わたしたちは、通勤や通学の片道に一体どれくらいの時間をかけているのでしょうか。

職場や学校が自分の住んでいる市区町村にある場合、平均で16分。85%の人は30分以内と答えています。宮崎県、愛媛県、島根県、山形県、福井県では、約8割の人が30分以内という調査結果が出ています。また、ほかの市区町村に通っている人で、30分以内と答えた人は28%。平均では41分になっています。

一方、県外へ通勤や通学をしている人で、30分以内と答えた人はわずか5%。片道の通勤・通学時間の平均は、1時間14分。在住の市区町村に通っている人の約5倍です。全体の平均時間31分と比べても、2倍以上になっています。

時間をかけて通っている人は、主に埼玉県や千葉県、神奈川県や奈良県といった大都市近郊県に多く、約4割の人が1時間以上かけています。1時間以上かけている人の多くが、心や体に疲労を覚えているのが現状です。

時間別15歳以上
通勤・通学者数





1. 概況

管内経済をみると、住宅投資や新年度入り後も公共投資が好調に推移しているほか、家電販売も持直しているが、大型小売店の売上や新車登録台数が引続き前年割れとなっているなど個人消費は依然低迷しており、景気全体は下げ止まったとはいえ、明確に回復過程に入っているとはみられない。

すなわち製造業では、水晶振動子が移動体通信向けの輪内需好調から、セメントも官公需主体に、ともにフル生産体勢を継続している。また、半導体が米国向け4MDRAMの需要好調等から高水準の操業となっているほか、造船、合板機械、漁業機械もまずまずの操業を持続している。これに対して、製缶機械は減産体勢を持続、水産加工、水産加工機械の売上も前年を下回った。

一方、非製造業では、4月の市内大型小売店の売上は、衣料品では前月に比べマイナス幅縮小の動きがみられたが、全体としては引続き前年を下回った。耐久消費財では、家電販売が持直しているものの、新車自動車販売は、小型車、大衆車の不振を主因にマイナス幅がやや拡大した。この間、観光客の入込みをみると、4月の市内主要ホテルの宿泊客数は引続き前年を上回ったものの、ゴールデンウィークを前に入込みがやや伸び悩んだためその幅は縮小した。

農業をみると、水稻等農作物の成育は平年並みとなっており、農作業も順調に進捗している。

こうした中、ゴールデンウィーク期間中の観光動向は、観光客の入込みこそ前年並みとなったものの、観光客の堅実化志向や天候不順の影響から観光施設等の利用客数が前年を下回った。またホテル・旅館筋でも客単価の低下に加え、付帯施設の利用状況が悪く、加えて土産物の売上も伸び悩むなど、期待に反してやや盛上りを欠く結果となった。

4月の金融動向をみると、災害復旧関連の工事代金入金増等により預金は増加したものの、貸出は引続き低調に推移。この間、管内銀行の貸出約定平均金利はほぼ横這いの動きとなった。

2. 主要業種別動向

(1) 機械・電子部品

水晶振動子が、移動体通信向けの輪内需好調を映じてフル生産体勢を継続している。また、半導体が、米国向け4MDRAMや家電向けマイコンの需要好調から、高水準の操業となっている。加えて、造船は新造船部門を中心に、合板機械もやや高めの受注残消化のため、まずまずの操業を持続。漁業機械は漁船設備の更新投資等を背景に前年を上回る生産を続けている。一方、製缶機械は、製缶業者の設備投資抑制を映じ引続き減産体勢となっているほか、水産加工機械の売上も前年を下回った。

(2) 食料品

水産加工の売上は、生鮮珍味が引続き順調に推移しているものの、乾燥珍味が需要の低迷から依然低調に推移したため、全体では引続き前年を下回っている。一方、魚油の売上は順調に推移している。

(3) その他製造業

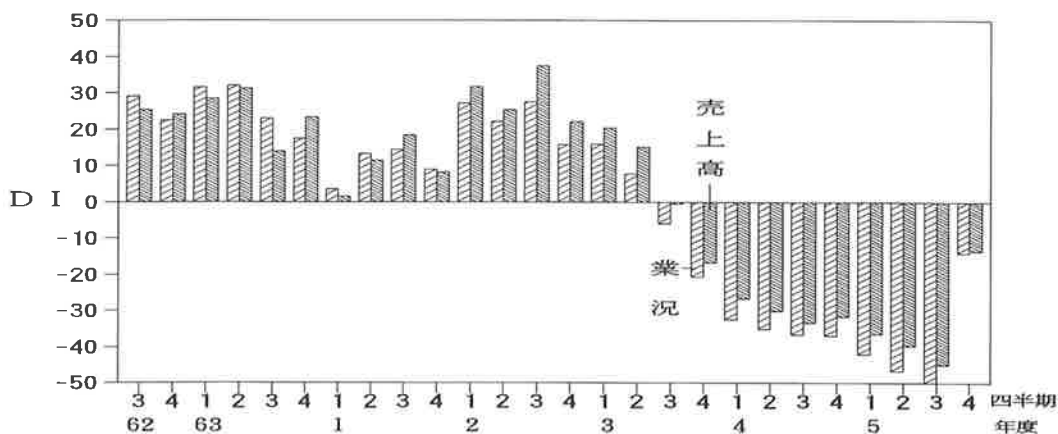
セメントは、キルンの定期点検のため稼働率がやや低下しているものの、基本的には官公需を中心にフル生産体勢で臨んでいるほか生コンの出荷も災害復旧工事の進捗に伴い好調を持続している。また段ボールの生産は、加工食品向けを中心に順調に推移している。一方、合板は、インドネシアからの安値輸入合板の動きを睨みながら、慎重な生産スタンスを継続。この間、漁網の受注・生産は需要の低迷から依然低調に推移している。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」するとみる企業 4.9%に対し、「変わらない」とする企業が82.6%、「悪化

するとみる企業12.5%で、D Iは-7.6となり、今期同様の見通しとなっている。

図-7 業況・売上額D Iの推移(全業種・対前年同期比)



函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成6年4月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	2,882,834	89.7	96.2
身の回り品	685,858	86.1	96.7
雑貨	773,506	85.3	95.0
家庭用品	729,802	98.7	95.9
食料品	1,748,000	89.4	95.8
食堂・喫茶	147,695	88.0	95.7
サービス	71,769	96.7	60.8
その他	551,545	88.2	100.3
総計	7,591,009	89.5	95.7

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、
 テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

統計資料

利益の減少」5.9%、「運転資金難」5.9%。

サービス業では「客単価の値下がり」9.5%、「営業経費の増加」8.9%となっている。

来期(4月~6月)の見通し

今 期： 6年 1月～ 3月実績

前年同期： 5年 4月～ 6月実績

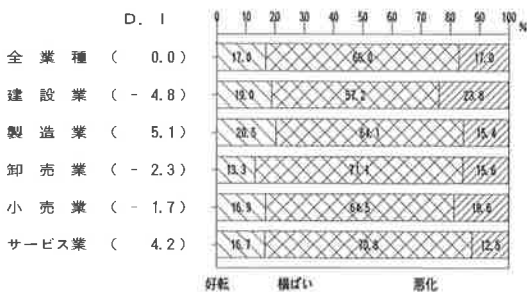
1. 業況について

来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業20.9%に対し、「横ばい」とみる企業が62.9%、「悪化」するとみる企業は16.2%となっており、D Iは4.7とプラスに転じている。

前年同期比でみると、「好転」17.0%に対し、「横ばい」66.0%、「悪化」17.0%で、D Iは0.0と不況感にも漸く底打ち感が出てきている。

業種別のD Iでみると、今期比では、製造業が22.5、卸売業が8.9、サービス業が8.3とプラスに転じたほか、建設業が-13.0、小売業が-5.1とマイナスながらその幅が縮小している。前年同期比のD Iでは、製造業5.1、サービス業が4.2とやはりプラスに転じたほか、建設業-4.8、卸売業-2.3、小売業-1.7といずれの業種もマイナス幅が縮小、期待感が現れている。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

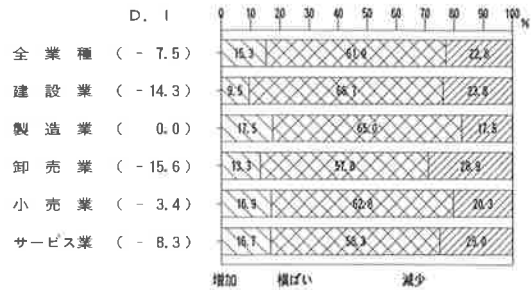


2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業21.6%に対し、「横ばい」とみる企業60.5%、「減少」するとみる企業17.9%で、D Iは3.7とプラスに転じている。

また、前年同期比でみると、全業種では「増加」15.3%に対し、「横ばい」が61.9%、「減少」が22.8%で、D Iは-7.5となっている。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)



次に来期の売上見通しを業種別のD Iでみると、

【建設業】

今期比-8.7、前年同期比 -14.3となったが、総合工事業以外では慎重な見通しとなっている。

【製造業】

今期比23.1、前年同期比0.0となっており、水産加工業、セメント製造業、機械金属製品製造業で増額を見込む企業が多くなっている。

【卸売業】

今期比8.9、前年同期比 -15.6で、今期比では、繊維品卸売業、燃料卸売業以外で「増加」を見込む企業が多く見られたが、前年同期比ではいずれの業種も引き続き厳しい見通しとなっている。

【小売業】

今期比-6.8、前年同期比-3.4となっており、食料品小売業では増額を見込む企業が多くなったが、ほかは引続き厳しい見通しとなった。

【サービス業】

今期比0.0、前年同期比-8.3となっており、旅館・ホテル業でシーズン入りによる期待が見られたが、ほかは低調な見通しとなっている。

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比13.1、前年同期比 9.6とプラスに転じており、総合工事業を中心に「増加」と回答した企業が多くなっている。

【製造業】

今期の生産額についてのD Iは、前期比が-15.8、前年同期比-5.2で、食料品製造業、機械金属製品製造業では前期比、前年同期比ともにD Iがプラスに転じたが、水産加工業を始め、その他の業種では依然低水準で推移している。

【卸売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が-34.1、前年同期比が-6.8で、医薬化粧品、機械器具卸売業では増加と回答した企業が多く見られたが、繊維品卸売業を筆頭にほかは依然厳しい状況となっている。

【小売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が-17.0、前年同期比 -27.2となっており、自動車小売業の前期比でD Iがプラスとなったほかは、前期比、前年同期比ともにプラスの細業種はなく、依然低調に推移している。

【サービス業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が-39.2、前年同期比 -27.3とマイナス幅こそ若干縮小しているが、観光関連業種を中心に引続き厳しい状況となっている。

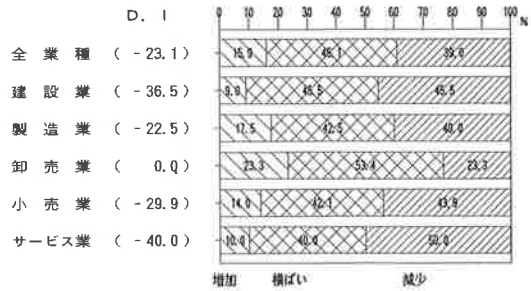
3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業12.8%に対し、「横ばい」が44.4%、「減少」している企業42.8%で、D Iは -30.0となり、引続き減少傾向で推移している。

また、今期の純利益を前年同期比でみると、全業種では「増加」15.9%に対し、「横ばい」45.1%、「減少」39.4%で、D Iは -23.1となり、依然採算は悪化傾向にある。

業種別にみても、D Iのマイナス幅こそ縮小しているものの、すべての業種で前期比、前年同期比ともマイナスとなっている。

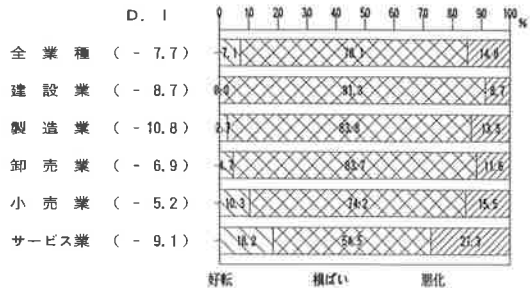
図-3 今期の純利益 (対前年同期比)



4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」している企業 7.1%に対して、「変わらない」とする企業が78.1%、「悪化」している企業14.8%で、D Iは -7.7となっている。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)



5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、引続き「売上・受注の不振」をあげる企業が44.6%で最も多く、またこれはいずれの業種でもトップとなっている。

その他の問題点を業種別にみると、

建設業では「工事価格の値下がり」が20.0%、「純利益の減少」が15.0%。

製造業では「景気の見通し難」が18.2%、「純利益の減少」15.2%。

卸売業では「販売価格の値下がり」が20.0%、「景気の見通し難」13.3%。

小売業では「人件費の増加」9.8%、「純

函館地域における 景気動向

〈平成5年度・第4四半期〉

平成5年度・第4四半期（平成6年1月～3月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので、概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	197社	61.6%
建設業	40	23	57.5
製造業	80	40	50.0
卸売業	70	45	64.3
小売業	90	60	66.7
サービス業	40	24	60.0

（注）本調査結果の中のD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期（1月～3月）の実績

前 期： 5年10月～12月実績
前年同期： 5年 1月～ 3月実績

1. 業況について

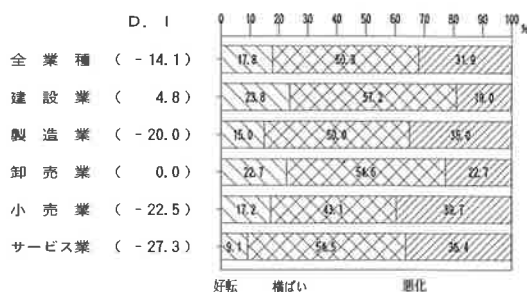
函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業16.4%に対し、「横ばい」が47.6%、「悪化」している企業36.0%で、D Iは -19.6となっており、引続き悪化基調で推移しているが、D Iのマイナス幅は縮小している。

業種別のD Iで見ると、建設業で4.4とプラスに転じたが、ほかは製造業 -25.0、卸売業 -22.7、小売業 -16.9、サービス業 -34.8と依然悪化基調。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では、「好転」17.8%に対し、「横ばい」が50.3%、「悪化」が31.9%で、D Iは -14.1となり、平成3年度第3四半期以来、10期連続のマイナスとなった。（図-7参照）

業種別のD Iで見ると、建設業が4.8とプラスに転じており、卸売業で0.0とマイナスを脱したが、ほかでは製造業 -20.0、小売業 -22.5、サービス業 -27.3となっている。

図-1 今期の業況（対前年同期比）



2. 売上額について

今期の売上額を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業19.8%に対し、「横ばい」が40.6%、「減少」している企業39.6%で、D Iは -19.8となり、引続き減少傾向を示している。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」21.2%に対し、「横ばい」44.0%、「減少」34.8%で、D Iは -13.6となり、やはり10期連続のマイナス。マイナス幅は縮小しているものの依然低水準で推移している。（図-7参照）

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

